

コンゴ民主共和国キヴ地方の昔話

KIKADA (歩けない人) の話

語り手：ムワンザ・ドウンダ
挿し絵：ふしはら のじこ

ある所に一人の男がいました。男は結婚し、妻となった娘は子どもを産みました。けれど、その子どもはキカダ(歩けない人) だったのです。男は妻がそんな子を産んだことを快く思いませんでした。そこで男は、もっとまともな子どもが欲しくて別の娘を妻にしようと思いました。男は美しい娘を妻にし、新しい妻は五体満足な子どもを産みました。でも最初の妻とキカダも同じ所で暮らしていました。

そうして15年ほど過ぎた頃、男の国で大きな戦争が始まりました。やがて男の住む地方へも戦が近づいて来ました。屈強な兵隊が強力な武器を持ち、近くの村々を占領していました。男の村へももうすぐ兵隊がやって来ることは分かっていたのですが、皆なすすべなく過ごしていました。それから2日経つと、鉄砲を撃ち合う音が近くに聞こえてきました。

その時、あのキカダが言いました。「ぼくにいい考えがあります。ぼくの知恵を使って、この村に兵隊が来て村人が殺されることがあっても、ぼくたち父さんや母さん、兄弟たちと父さんのもう一人の奥さんも死なずに逃げられるようにしましょう」

それを聞くと誰もが驚いていました。「なんだって！歩くこともできない者が人を助けられるだって？」

「まあ見てみてください」とキカダはいいました。キカダは父さんはじめ家族みんなを大きなルクンベ(木をくり抜いて作ったトーキングドラム、村人を呼び集める時や他の村に伝達する時に叩く)の中に入れました。みんなはなぜルクンベの中に入るのかわかりませんでした。キカダには考えがありました。

やがて兵隊たちが村にやって来ました。兵隊は家々を焼き人々を殺しましたが、キカダの家族はルクンベの中いたので無事でした。しかしすぐに、キカダたちは村を出て遠くへ逃げなくてはなりません。兵隊たちは村を占拠すると居座るでしょう。そうなるならルクンベの中に居ては、食べ物も水も手に入れることができません。

そこでキカダはルクンベの中であるものを作り出しました。それは飛行機のように飛べるキングングという魔法の乗り物でした。キカダはそれを見事に作り上げました。そして、父さん母さん、父さんのもう一人の妻と子どもたちをキングングに乗せました。夜になり兵隊たちが眠りにつくと、キカダはキングングをゆっくりと外に出し、その飛

行機は徐々に飛び上がりました。上へ上へと上がり夜の間中飛び、兵隊の上を横切って、戦のない場所まで飛んで行きました。人々はキングングがやって来るのを見ると、あれは飛行機だと言いました。

その道すがらキカダはこんな歌をうたいました。「キングングはマロンゴに行くよ。私は逃げて行く。戦から逃げて行く。私が歩ける足を持たずに生まれたことで、見捨てた父さんも連れて行く。今日まで母さんはもう子どもを産むことはなかった。それは普通の身体ではない私を産んだからなのだ」

2日の間飛び続け、とても遠いところまでやって来ました。キカダはキングングを下に降ろして森の中に降り立ちました。キカダは父さんに言いました。

「さあ父さん、ここに村を造りましょう。戦はここまでは来ません。私達はいくつもの大きな河を越えてきました。兵隊はここまで来られません」

父さんは言いました。

「息子よ、どうもありがとう。まず村を造ろう。そうして私の思っていることを話そう」

そこで他の丈夫な兄弟たちは木を切り、家を2軒建て始めました。1軒はキカダの母さんのため、もう1軒は自分たちの

母さんのために。

やがて2軒の家ができ上がると、父さんは子どもたちを呼び集めて話しました。

「子どもたちよ、私は間違っていた。最初の母さんが産んだ子は歩けないキカダだった。私はそんな子に用はないと思い、その子の母さんをないがしろにして、君たちの母さんをめとった。けれどキカダがいなければ、私たちは他の村人と同じように死んでいただろう。そこでだ、今日から私が死んでしまった後もずっと、たとえどんな子どもが生まれても、その子を疎んではいけない。寝たきりの人でも、手のない人でも、また目の見えない人でも、足のない人でも大切にしなければいけない。その人もまた君たちを助けてくれるだろう」

このお話はこれで終わりですが、私たちも同じことです。もしあなたの妻が身体の不自由な子どもを産んでも、妻を追い出したりしてはいけない。それは彼女の罪ではないのだ。もう一つは、身体が不自由な者でも、いつかあなたを助けてくれるのです。

